

精密金型メーカーから“プラスチック精密成形総合システム会社”へ

不二精機株式会社
第2四半期決算説明資料
証券コード6400



2015年9月14日HP公開

www.fujiseiki.com

2015年第2四半期の決算と今後の展望などをご説明いたします。

会社概要

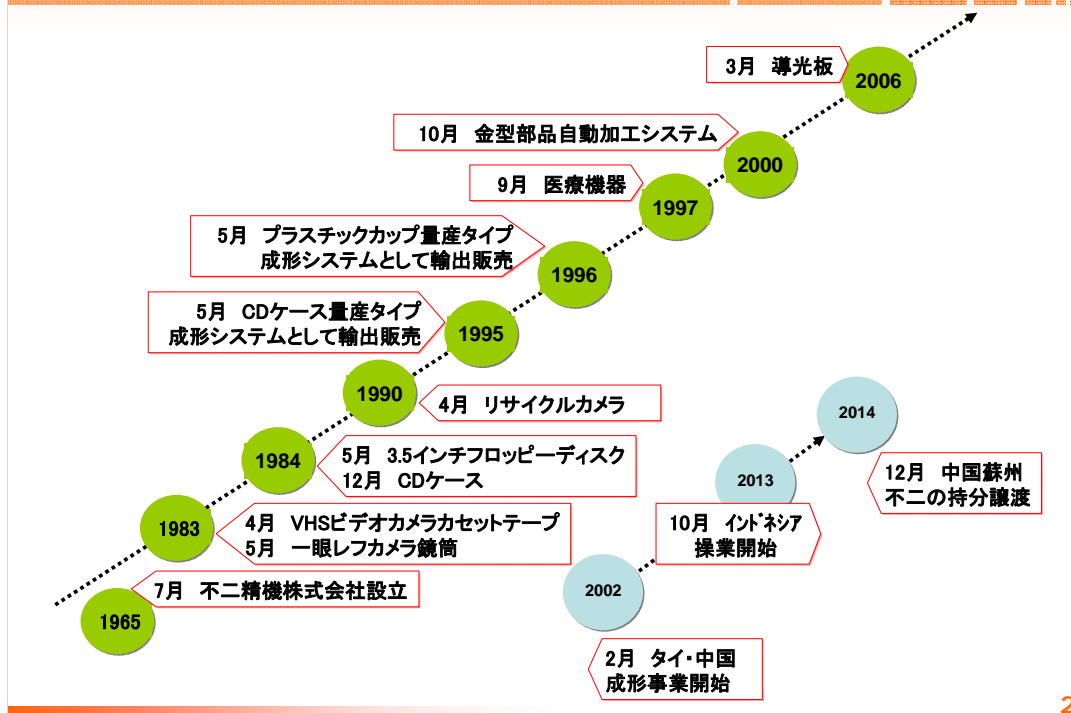
PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

1

当社の概要を紹介いたします。

沿革(主力製品の推移)

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



2

当社は、1955年の創業以来、「精密金型」ひとすじに物づくりを行ってまいりました。

1984年頃からは、成形品1個当たりのコストが重視される大量生産品向けの金型が主力製品となりました。

1995年頃より、金型単体での販売だけでなく、顧客が求める成形品を生産するために必要な生産設備(金型、成形機、取出し機、自動組立機等)も併せての販売(成形システム)が主力製品となりました。

さらに、現在の金型事業においては、金型より生産される成形品そのものの精密さを求められる、デジカメ等のズーム部分である鏡筒向け及び、ノートPC等用導光板向けの精密金型ならびに成形品、大量生産品である注射器等医療機器向けの精密金型及び成形システムが主力製品となりました。

初の海外進出を果たした2001年より成形品生産を開始いたしました。2007年頃より、二輪・四輪車の主に燃料噴射装置部品等の生産を開始し、中期戦略である自動車部品の売上構成比率の拡大を着実に進めております。

2013年10月より不二精機インドネシアの操業を開始し、東南アジアでの二輪・四輪用成形部品の受注拡大を目指しております。

2014年12月には、欧州の大手電機メーカーの新仕様のCD(コンパクトディスク)ケースの受託生産を主力事業として2002年3月に設立した中国:蘇州不二精機有限公司は、当社グループとして中期的に目指す自動車関連部品等の小物精密成形品の製造に適さないこともあり、固定費の圧縮および投資資金の回収を図ることを目的に富優技研(維爾京)股份有限公司へ持分の全部を譲渡いたしました。

海外製造拠点

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

上海



設 立：01/09
稼働開始：02/03

光学機器用、自動車用など
の精密成形品の製造を担当

THAI



設 立：01/01
稼働開始：02/03

自動車用などの精密成形品
の製造を担当

常州



設 立：02/11
稼働開始：03/10

医療用、グループ内向けなど
の精密金型の製造を担当

INDONESIA



設 立：12/10
稼働開始：13/10

自動車の精密成形品
の製造を担当

3

2001年より海外展開を進め、中国/常州に精密金型製造会社のほか、中国/上海、タイ、インドネシアに3拠点の成形品製造会社を稼働させております。

なお、2011年10月に発生した洪水により操業を停止したタイ不二精機は、2011年12月から移転した新工場で操業しております。

さらに、アジアでの自動車生産拠点の集中化に対応し、2012年10月に設立した不二精機インドネシアは、2013年10月より二輪・四輪部品等の成形品の生産を開始し、順調に増産を続け、早期の黒字化を目指しております。

15/12月期 第2四半期決算の概要

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

営業利益の黒字化達成！

4

2015年12月期第2四半期の決算概要についてご説明いたします。

15/12月期第2四半期(累計)決算の概要

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

(百万円)		14/6月期	15/6月期	増減額	増減率(%)
売上高	連結	2,419	2,591	171	7.1
営業利益	連結	△63	91	154	-
経常利益	連結	△114	36	150	-
純利益	連結	△77	49	126	-

連結決算のポイント

◆売上高は、蘇州不二(前期持分譲渡済)分の減収を操業2年目のインドネシア子会社の増収でカバー、金型事業の増収があり、前期比7.1%の増収

◆営業利益は、蘇州不二での赤字解消とインドネシア子会社の創業赤字の減少などにより黒字化

◆経常利益・純利益は、営業利益の黒字化などで黒字転換

5

2015年第2四半期(累計)の売上高は、慢性的な赤字を解消するため、昨年グループ外へ持分譲渡した蘇州不二精機分の減収を操業開始2年目のインドネシア子会社の増収でカバーしたこと、および医療機器用精密金型の増加などにより前期比1億71百万円(7.1%)増加の25億91百万円となりました。

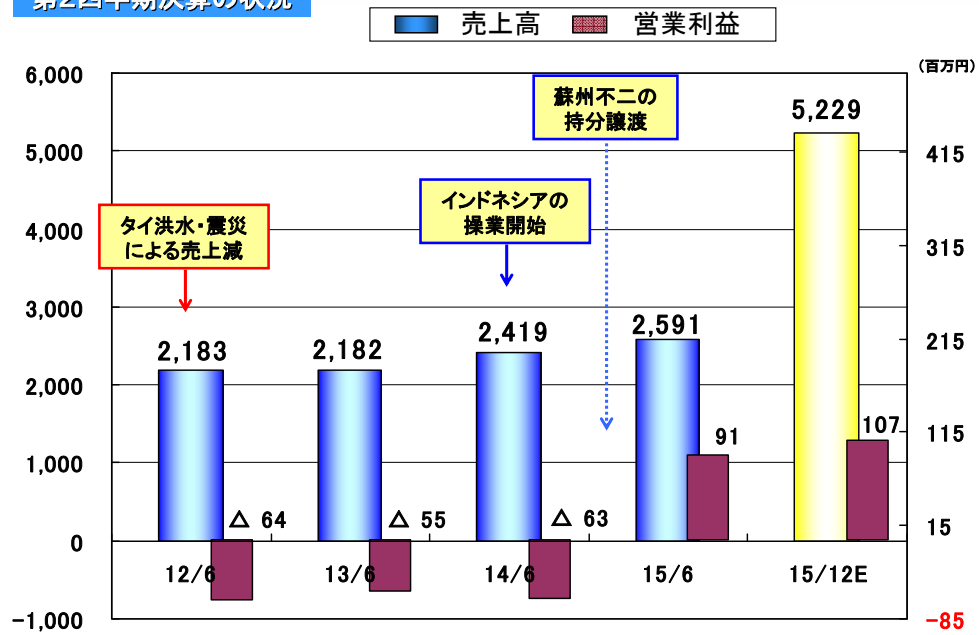
営業利益は、蘇州不二精機で発生していた赤字が解消したこと、および操業開始2年目のインドネシア子会社の創業赤字が計画通り減少したことなどにより、前期比1億54百万円増加(前期は営業損失63百万円)の91百万円となりました。

経常利益は、営業利益の増加により前期比1億50百万円増加(前期は経常損失1億14百万円)の36百万円となりました。

純利益は、前期に計上したタイ子会社の遊休資産(洪水被災物件)の売却益が減益要因となったことなどにより、前期比1億26百万円増加(前期は純損失77百万円)の49百万円となりました。

売上高と営業利益の推移(連結) PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

第2四半期決算の状況



6

2015年通期の業績予想につきましては、子会社のある中国、タイ、インドネシア各国の経済減速が予想されていることなどを勘案し、平成27年2月19日付で公表いたしました業績予想の売上高52億29百万円、営業利益1億7百万円を据え置き、現時点では変更していません。

B/Sの主な増減科目(連結)

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

(百万円)	14/12期末		15/6期末		増減額	コメント
		構成比		構成比		
流動資産	3,414	53.3	3,267	50.8	△147	
現金・預金	829	12.9	923	14.4	94	
受手・売掛金	1,312	20.5	1,136	17.7	△176	売掛金の減少
棚卸資産	731	11.4	855	13.3	124	製品の増加
固定資産	2,875	44.8	3,055	47.5	180	インドネシアの設備
資産合計	6,411	100.0	6,433	100.0	22	
流動負債	3,277	51.1	3,375	52.5	98	
支払手形・買掛金	841	13.1	709	11.0	△132	買掛金の減少
固定負債	1,883	29.4	1,664	25.9	△219	社債及び長期借入金の減少
負債合計	5,161	80.5	5,040	78.4	△121	
純資産合計	1,250	19.5	1,393	21.6	143	自己資本比率 +2.1ポイント
負債・資本合計	6,411	100.0	6,433	100.0	22	

自己資本比率 21.6%

7

当第2四半期末の総資産は、前年度末比22百万円増の64億33百万円となりました。主として、インドネシア子会社の設備投資によるものです。

負債は、前年度末比1億21百万円減の50億40百万円となりました。主として、社債及び長期借入金が増加したことによるものです。

純資産は、利益剰余金が増加したことなどにより、前年度末比1億43百万円増の13億93百万円(自己資本比率は、2.1ポイント増の21.6%)となりました。

キャッシュフローの状況(連結)

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

累計期間(百万円)	14/第2四半期	15/第2四半期	増減額
営業活動によるキャッシュフロー	▲15	87	102
投資活動によるキャッシュフロー	26	0	▲26
財務活動によるキャッシュフロー	9	▲6	▲15
現金及び現金同等物の期末残高	887	923	36

キャッシュフロー要約

営業活動

主として、売上債権の回収・四半期純利益によるものです。

投資活動

インドネシアの成形設備などへの投資を継続しております。
(収入として蘇州不二の譲渡代金2億39百万円を計上しております)

財務活動

長期借入金・社債の返済を計画通り実行しております。

8

○営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、獲得した資金は、87百万円(前期は15百万円の使用)となりました。主として、売上債権の減少額1億49百万円および税金等調整前四半期純利益32百万円によるものです。(蘇州不二精機の譲渡に係る費用32百万を計上しております)

○投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、獲得した資金は、0百万円(前期は26百万円の獲得)となりました。主として、蘇州不二精機の譲渡による収入2億39百万円、有形固定資産の取得による支出2億23百万円によるものです。

○財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、支出した資金は、6百万円(前期は9百万円の獲得)となりました。主として、長期借入れによる収入2億50百万円および長期借入金の返済による支出3億21百万円、社債の発行による収入96百万円及び社債の償還による支出61百万円、リースバックによる収入72百万円及びリース債務の返済による支出28百万円によるものです。

基本事業戦略

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

9

基本事業戦略についてご説明いたします。

◆基本戦略

将来にわたる収益確保のため
「金型専業」から「成形事業」へ
収益の柱のシフトを目指します

当社グループは、将来的に市場規模の縮小が想定される「金型事業」から、当社の金型技術がなくてはできない付加価値の高い成形品を選択した「成形事業」へ収益の柱のシフトを目指しております。

◆なぜ成形事業か

成形品は儲からない？

成形事業は、**独自ノウハウの活用**で
高収益事業化が可能です

“**高生産性・収益性**”の金型設計・製造
ノウハウを持つ不二精機グループだから
実現できる！

11

当社のコア技術である「高生産性・高収益性」の金型技術と、中国、タイ、インドネシアの各成形工場の品質および生産管理技術を融合させることにより、成形事業を安定的な高収益事業化を進めてまいります。

◆高収益性金型のポイント

- | | | |
|----------|-----|----------|
| ①ハイサイクル化 | ・・・ | 1成形の時間 |
| ②多数個取化 | ・・・ | 1成形当りの個数 |
| ③材料低減化 | ・・・ | ランナー重量減 |
| ④歩留り向上 | ・・・ | 良品率向上 |



12

①「ハイサイクル」とは、成形機に搭載された金型に溶融樹脂を注入～冷却工程にて金型内の樹脂を固化(金型形状の転写)～金型を開いて成形品取出し～型閉め工程を「1サイクル」とし、この一連の工程(サイクル)を高速化させることをハイサイクル化といいます。

このハイサイクル化を実現するためには、金型の高精度化に加え、金型冷却のノウハウや成形技術ノウハウが必要となります。

②「多数個取」とは、成形機の大きさに応じて決まる金型の大きさの制約の中で可能な限り多数の製品を配置する金型技術です。

また、多数個取金型は、製品寸法のバラツキを発生させないため、高精度加工、冷却回路等、非常に難易度の高いものづくりが要求されます。

③「材料低減」ー 成形機で溶融させた樹脂を金型内に射出後、金型内に掘り込まれた湯道を通り、金型内の製品掘り込み部分に転写させますが、この湯道が「ランナー」と呼ばれています。(例:プラモデルの枝の部分です)

「ランナー」は製品を成形するために必要ではあるものの、製品には必要がなく、いわば成形工程における「材料ロス」です。

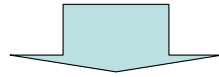
当社ではこのランナー重量(太さ・大きさ等)を、可能な限り少なくし安定した品質が実現できる金型づくりを行っております。

④良品率を向上するためには、金型の精度はもちろん、成形技術ノウハウが必要となります。

当社では、長年蓄積した金型完成後の試作データを元に、さまざまな特性を持つ樹脂成形にもそのノウハウを活かしております。

◆連結利益目標達成への課題

- ①国内金型市場の縮小への対応
(顧客の海外生産シフト)
- ②成形品事業の受注変動リスク低減
(安定稼働を目指した製品への集中)

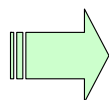


年間平均稼働率を高める

連結利益目標の達成に向けての課題は、製造業の海外生産シフトが進む日本の金型市場への対応および安定した稼働が利益に直結する成形品事業での受注変動リスクの低減であると考えております。

◆課題への対処

- ①医療・食品分野への集中(金型事業)
(顧客ニーズへの対応により新規受注獲得)
- ②営業活動の重点シフト(成形品事業)
(海外の自動車関連部品の拡大へ集中)

**稼働率安定****利益目標達成!**

14

日本の金型事業においては、医療用品関連分野・食品容器関連分野への集中および関東工場(2011年1月開設)をサービス拠点として活用することで、東日本地域のお客様のニーズにきめ細かくお応えすることにより新規受注の獲得に注力いたします。

また、成形品事業の稼働率安定に向け、受注の波が比較的少ない自動車関連部品(2輪・4輪)分野への集中を進め、年間の稼働率の安定により目標とする連結利益の達成を目指します。

昨年、中国事業の再編を実施いたしました。蘇州不二精機の持分譲渡による赤字要因の解消(固定費の減少)および成形品事業の上海不二精機への集約による稼働率の向上により連結損益の改善効果が表れております。

2015/12月期事業計画

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

15

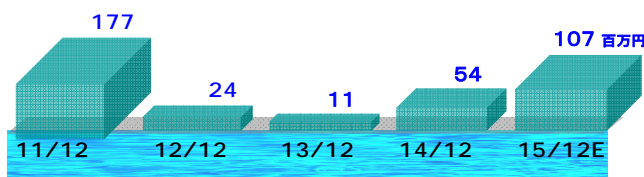
今期の事業計画をご説明いたします。

15/12月期通期計画(連結)

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

(百万円)	14/12月期	15/12月期計画	増減額	増減率%
売上高	5,234	5,229	▲5	▲0.1
売上総利益	975	1,077	102	10.5
販管費	920	970	50	5.4
営業利益	54	107	53	98.1
経常利益	26	▲42	▲68	—
当期純利益	▲257	▲63	194	—
設備投資	461	185	▲276	▲40.1
減価償却費	280	335	55	19.6

営業利益の推移



<営業利益計画のポイント>

- ◆インドネシア創業赤字縮小
- ◆蘇州不二の赤字解消
- ◆コスト構造の改革
 - ①内製化 → 外注費削減
 - ②自動化 → 人件費抑制

営業利益計画達成へ

16

2015年12月期は、当社グループ全体で各事業の選択と集中をさらに進め、精密成形品事業では、昨年度実施いたしました中国での蘇州不二精機の持分譲渡に伴う上海不二精機への集約・自動車関連製品へのシフトによる収益の拡大、および日本でのディスクケース製品のシェア拡大による安定収益の確保、ならびに東南アジアでの受注拡大に伴う増産体制の整備を進め、昨年度操業を開始いたしました不二精機インドネシアの創業赤字の縮小を進めて参ります。

精密金型事業では、日本市場で医療関連製品・食品容器関連製品、中国市場で常州不二精機において医療関連製品に集中した営業活動、およびグループ内で連携した固定費圧縮・内製化の推進などの生産性向上活動を実施し、安定収益の確保を目指します。

以上の方針により、2015年12月期の売上高は、2014年度に譲渡した蘇州不二精機の減収分約4億円をインドネシアの増収でカバーし、前期比5百万円の減収を計画しております。

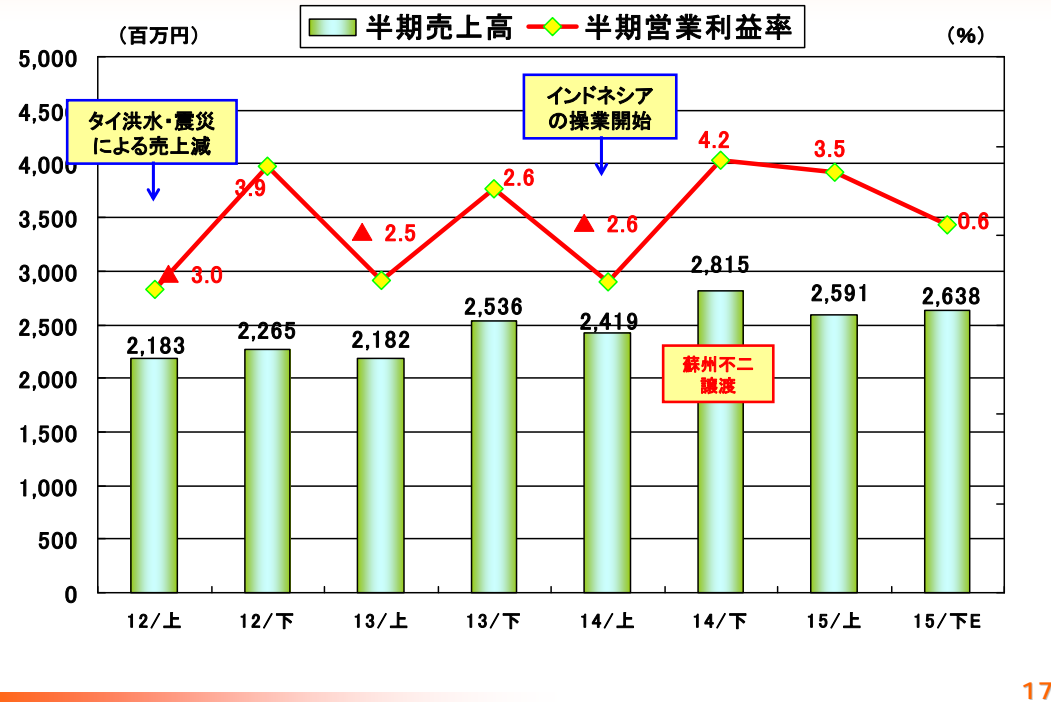
営業利益は、蘇州不二精機で発生しておりました赤字の解消(固定費の発生減少)効果および稼働率の向上による不二精機インドネシアの創業赤字の縮小、自動化/半自動化による人件費抑制を中心としたコスト構造の改革を確実に実施することにより、前期比53百万円増の107百万円の計画達成を目指します。

不二精機インドネシアの開業費償却および支払利息、前期に発生した為替差益90百万円を想定せず、42百万円の経常損失、63百万円の当期純損失を計画しております。

2015年通期計画につきましては、子会社のある中国、タイ、インドネシア各国の経済減速が予想されていることなどを勘案し、平成27年2月19日付で公表いたしました業績予想を据え置き、現時点では変更しておりません。

半期毎の業績推移(連結)

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



2015年12月期は、当社グループ全体で各事業の選択と集中をさらに進め、精密成形品事業では、昨年度実施いたしました中国での蘇州不二精機の持分譲渡に伴う上海不二精機への集約・自動車関連製品へのシフトによる収益の拡大、および日本でのディスクケース製品のシェア拡大による安定収益の確保、ならびに東南アジアでの受注拡大に伴う増産体制の整備を進め、昨年度操業を開始いたしました不二精機インドネシアの創業赤字の縮小を進めてまいります。

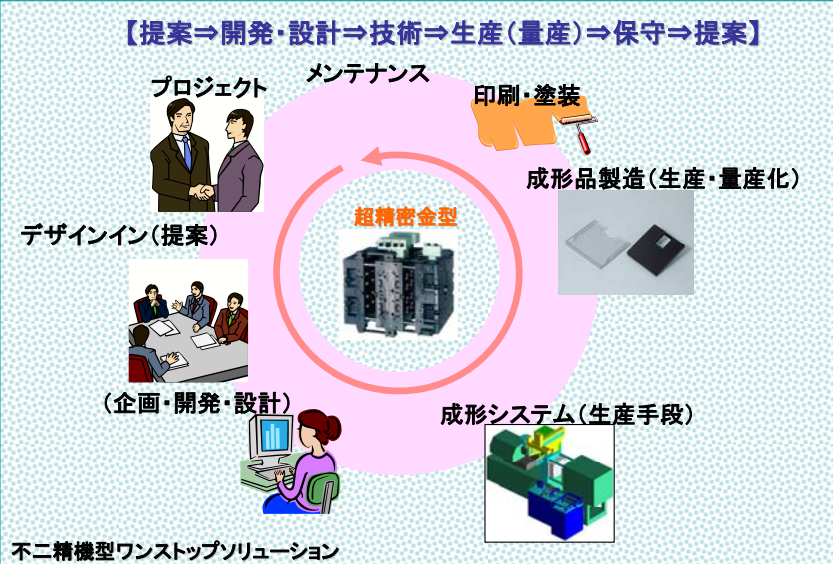
中期事業戦略

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

18

中期事業戦略についてご説明いたします。

“プラスチック精密成形総合システム会社”として、
不二精機型ワンストップソリューションを 今後もさらに展開する

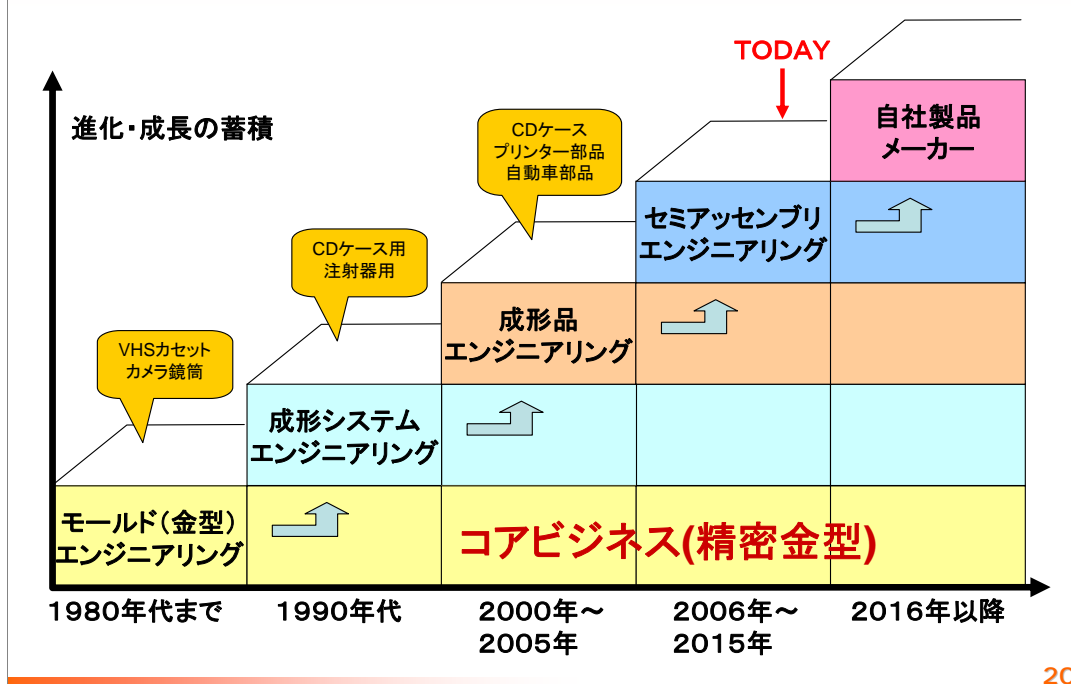


当社グループの総力で、金型の製作だけでなく、製品の企画段階より製品での納品まで(ワンストップソリューション)、精密金型技術をコア技術として、顧客のニーズに最適なものづくりを提案します。

もちろん、上図それぞれのステップ(金型製作のみ、成形品製造のみ等)単位でのご相談も承ります。

不二精機の歩みと今後

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



1955年の創業以来、「精密小物向け金型では、他社に負けない」を合言葉に、着々と顧客のご支援を頂きながら成長してまいりました。

1984年頃には、金型から生み出される成形品そのものの精密さが必要とされる商品向けの精密金型に加え、成形品1個当たりのコストが重視される大量生産品向けの金型にも当社の精密金型を必要とされることから、大量生産品向けマーケットへ進出しました。

1990年代より、単に金型単体での販売だけでなく、顧客が求める成形品を生産するために必要な生産設備(成形機、取出し機、自動組立機等)も併せての販売を開始しております。

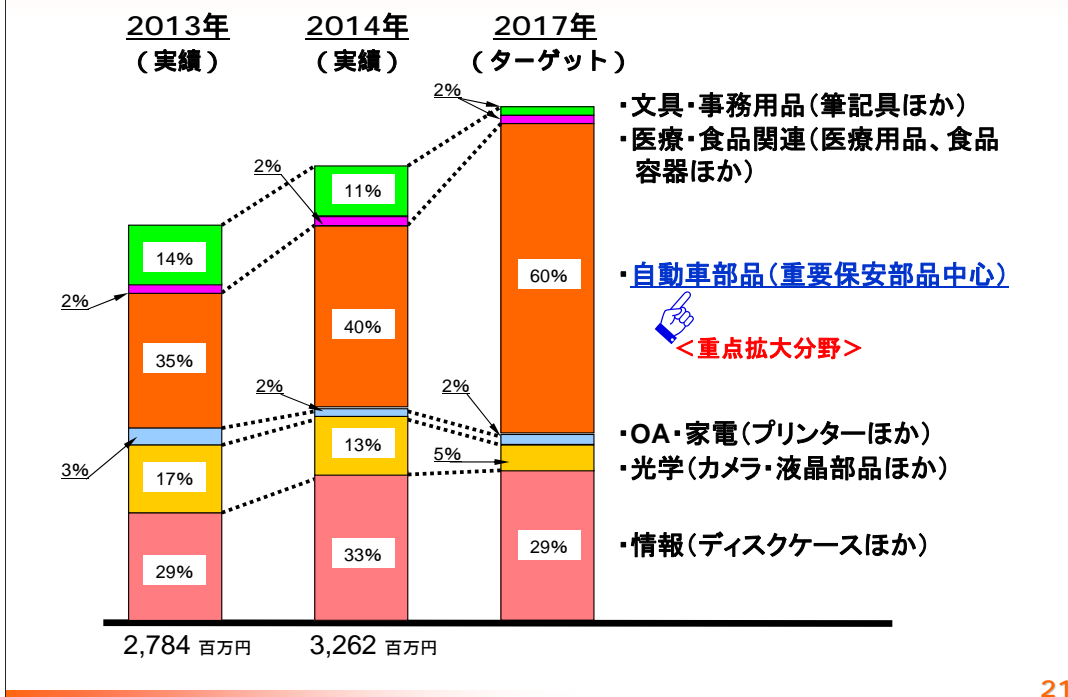
2000年からは精密金型をコアとし、タイ、中国にある当社海外グループ会社等において成形品製造・販売を主体としたビジネスを展開しております。

2006年以降は、成形品の販売のみならず、成形品への印刷・塗装およびセミアッセンブリにも事業を拡大しております。

2016年以降には、当社の強みである精密金型技術を活かした自社製品メーカーを目指します。

成形品売上<分野別ターゲット>

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



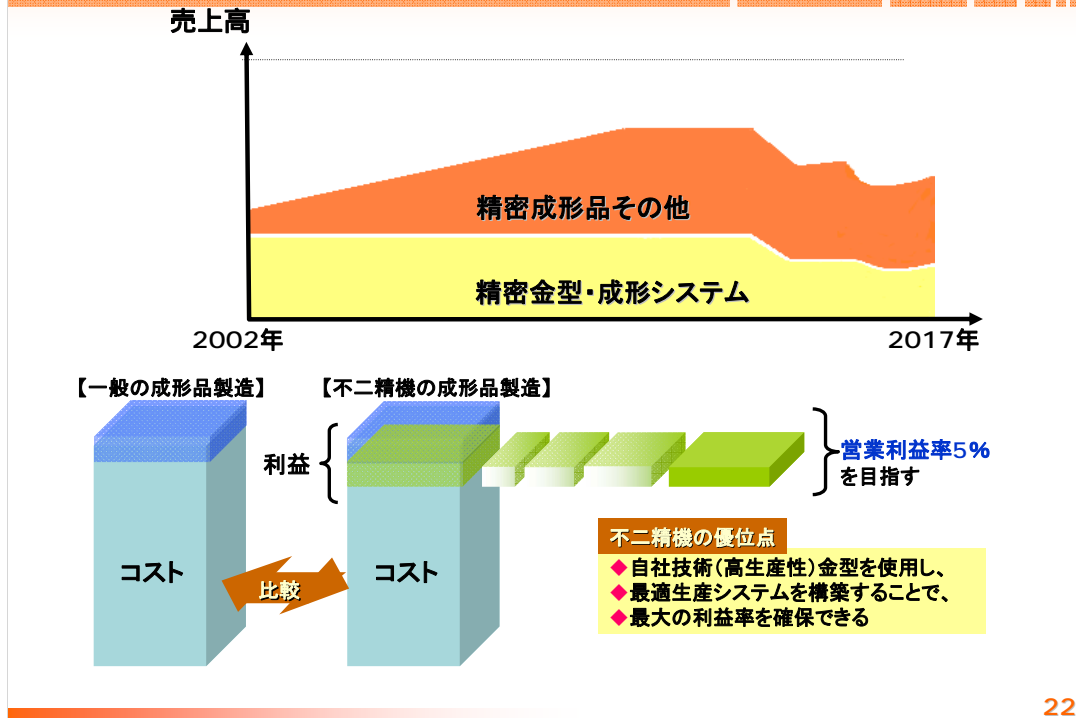
精密成形品売上の中で、市場が縮小方向にあるデジタルカメラほかの光学分野は減少を計画し、国内市場でのディスクケース製品は新製品効果などにより横ばいを計画しております。

受注の波が比較的少なく長期的安定生産につながる自動車部品(2輪・4輪)分野の拡大に集中し、利益率向上の課題である年間平均稼働率を高めることにより、利益率の改善および利益額の確保を目指します。

当事業の拡大には、当社グループの強みである高生産性金型技術および品質管理の整備された成形品量産体制を戦略的に活用いたします。

中期的展望

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



売上高に関しては、2008年から2009年にかけて精密金型事業、精密成形品事業ともに世界同時不況により、2011年から2012年は東日本大震災およびタイの洪水の影響を受け減収となりました。

精密成形品その他事業では、自動車関連部品(2輪・4輪)の分野の受注拡大を推進し、安定稼働と自動化/半自動化投資による省人化を進めることにより利益率の向上を目指します。

精密金型事業においては、強みのある医療機器、食品容器の金型販売および精密成形品事業の受注拡大につながる金型製造に注力いたします。併せて、さらなるコスト構造の改革により製造原価の低減を進め、利益率の改善を目指します。

以上の活動により、営業利益率5%の達成を中期目標としております。

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



お問合せ先

管理本部

TEL:06-4306-6822

23

ありがとうございました。